

2018.3.18 四旬節第五主日

お願いします。イエスにお目にかかりたいのです。

ヨハネによる福音 12:20-33

さて、祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいた。彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のフィリポのもとへ来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。フィリポは行ってアンデレに話し、アンデレとフィリポは行って、イエスに話した。イエスはこうお答えになった。「人の子が栄光を受ける時が来た。はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。わたしに仕えようとする者は、わたしに従え。そうすれば、わたしのいるところに、わたしに仕える者もいることになる。わたしに仕える者がいれば、父はその人を大切にしてくださる

今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、わたしをこの時から救ってください』と言おうか。しかし、わたしはまさにこの時のために来たのだ。父よ、御名の栄光を現してください。」すると、天から声が聞こえた。「わたしは既に栄光を現した。再び栄光を現そう。」そばにいた群衆は、これを聞いて、「雷が鳴った」と言い、ほかの者たちは「天使がこの人に話しかけたのだ」と言った。イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしのためではなく、あなたがたのためだ。今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」イエスは、御自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、こう言われたのである。

説教

聖書が語る「契約」は二つあります。旧契約と新契約です。

旧契約（略して旧約）は神とイスラエルの民族との契約で、モーセが仲介して石の板に刻まれた十戒です。

新契約（略して新約）はと神を信じるすべての人との契約で、イエスが仲介して人々の心に記された福音です。

わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。 エレミア 31：33 きょうの第一朗読参照

さて、きょうの福音はギリシア人がイエスに会いたいところから始まります。彼らはイエスの弟子フィリポにその旨を伝え、フィリポはアンデレに相談し二人でイエスにギリシア人の意向をイエスに伝えました。イエスはギリシア人の面会希望には直接返事をしないで、一粒の麦の説教をし、受難予告（ヨハネでは一貫して受難とは呼びません。きょうの個所では栄光を受ける時、と呼んでいます）すると、天からの声が聞こえたと記録されています。この天からの声がイエスさまのギリシア人に対しての応答になっているのかもしれませんが。

旧約はイスラエル民族と神との間の契約です。一方、新約は一人ひとりの人間と神との間の契約と考えることもできます。神と人間との仲介としてイエスさまがいて、罪のある人間でも誰でも神とつながる可能性ができました。人間の罪を背負う形でイエスさまが十字架にかかり、神と人との断絶を取り除いてくれました。わたしたちは救われ、神をたたえ、祈ることができるようになったわけです。

きょうの福音ではギリシア人たちがイエスに面会を希望していますが、福音書のなかでは面会できたとは記録されていません。

わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。

ヨハネ 12:32

わたしたちと同じようにギリシア人たちもイエスの十字架預言のあとにイエスさまのもとに引き寄せられたのでしょうか。

イエスの「**すべての人を自分のもとへ引き寄せよう**」というみ言葉はイエスの弟子たちを中心に教会という新しい信仰共同体によって現実的な行動をもって

始められました。ギリシア人たちは地上のイエスに面会することはできませんでした。彼らもある意味ではわたしたちと同じように十字架で死に復活して天に昇られたイエスさまにしか会うことはできなかったはずです。

来週は受難の主日を迎えます。キリスト信仰共同体として教会はイエスの過越を記念して聖なる3日間を過ごします。イエスさまが示し十字架をとおし
て教えてくださった神とわたしたちの新しい契約を、いまの現実世界に生きる者として一人ひとりが深く思い、考えることができますように。
